

RDN

福岡山王病院 循環器センター | 横井宏佳

はじめに

ESH/ESC2013、JSH2014では治療抵抗性高血圧に対する新しい治療法として、腎動脈にカテーテルを挿入し、血管内膜側から高周波を発生させ、外膜に存在する腎交感神経を焼灼する腎デナベーション（RDN:腎神経焼灼術）が紹介されていたが、2015年に報告されたシャムコントロール群と比較したSimplicity HTN-3試験では腎デナベーション群で6ヶ月後の診察室血圧において有意な降圧効果は得られなかった。この報告後RDNは理論上確立しているものの、有効症例が限定的である可能性が示唆され、降圧剤の十分な減量に結びつかないこと、心血管イベント抑制効果が明らかでないことが指摘され、参入企業の多くが開発を止め、臨床的期待も急速に減少した。

しかしその後、腎動脈遠位側を高周波でアブレーションできるようにカテーテルを螺旋状とし焼灼点を多極化した新しい高周波型RDNデバイス開発や、非収束超音波エネルギーを血管内から送達し交感神経を焼灼する超音波型RDNデバイスの開発により、Off-Med試験、On-Med試験、治療抵抗性高血圧試験において、シャムコントロール群に比較して良好な降圧効果が報告され、RDNの臨床応用へ

の期待が高まっている。そこで、現状のRDNの最新エビデンスを整理して、本邦におけるRDNの方向性を産官学で議論するために、本セッションを企画した（図1）。

最初のセッションは交感神経活性と腎動脈交感神経解剖について基礎的なことを学び、高血圧治療におけるRDNの役割を考える。最後に欧州RDNガイドライン作成に関わられたFelix先生よりRDNの現状の問題点と今後の展望について講演をいただく。

Sympathetic nerve activity and anatomy -Role of RDN-

8:30~9:55

座長

岸 拓弥（国際医療福祉大学大学院医学研究科）

朔 啓太（国立循環器病研究センター）

演者

腎動脈交感神経の解剖

佐藤 優（東海大学）

第2会場 RDN

- + 8:30~9:55 Sympathetic nerve activity and anatomy -Role of RDN-
- + 10:05~11:30 SS-1 RDNの各国の現状
- + 11:45~13:35 LS-2 RADIANCE program up-date
- + 13:45~14:15 CB-1 Clinical importance of controlling nighttime ABPM by RDN（仮）
- + 15:30~16:00 CB-1 SPYRAL program up-date and future direction of RDN（仮）
- + 16:05~16:55 Radiofrequency based RDN
- + 17:05~18:30 Town Hall Meeting

図1